

多摩市のみらいづくりワークショップ (総合計画改定ワークショップ) 実施報告書

平成 31 年 2 月
多摩市



《目次》

第 1 章 多摩市のみらいづくりワークショップ (総合計画改定ワークショップ) について	
1 概要・目的	1
2 「重点課題」について	1
3 当日のスケジュール	2
4 進行・実施方法 (ワールドカフェ方式)	2
第 2 章 開催概要	
1 全体概要	4
2 討論の結果	5
第 3 章 各テーブルの模造紙紹介	11



市役所職員 にゃんともTAMA三郎

第1章 多摩市のみらいづくりワークショップ（総合計画改定ワークショップ）について

1. 概要・目的

現在、多摩市では、市の最上位計画である総合計画を改定しており、これまで公募市民や学識経験者から構成される多摩市総合計画審議会や市の職員による検討を行い、第3期基本計画において、市が直面している課題のうち、特に重点的なものを「3つの重点課題」として掲げ、各6つの計18の視点のもとで、各施策に反映させながら、取り組みを推進していくこととしています。

今回の「多摩のみらいづくりワークショップ」は、「①超高齢社会への挑戦」、「②若者・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり」、「③市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり」の3つの重点課題をテーマとして、必要な取り組みに加え、**特に私たちにできること**について、市民の皆さんの目線で、自由に議論していただきます。話し合われた内容は、総合計画へ反映させるとともに今後の市政運営の参考といたします。

2. 「重点課題」について

「重点課題」とは、現行の総合計画である「第2期基本計画」の取り組みの方向性の1つとして位置づけている「健幸都市（スマートウェルネスシティ）多摩の創造」を、次期の総合計画でさらに拡充させていくために、**今後4年間で特に重点的に推進していく3つのテーマ（行政課題）**のことで、それぞれ6つの視点で構成されています。これまで、多摩市総合計画審議会での審議と2回の市民ワークショップを経て、下記のとおりに取りまとめました。

重点課題1 超高齢社会への挑戦

- だれもがいいきと生活できるための健康づくり活動の支援
- 介護予防・フレイル（虚弱）予防のさらなる充実
- 地域医療・介護体制を支える仕組みづくり
- 高齢者の居場所づくりと地域における支援体制の充実
- だれもが安心して外出することができるための交通体系・交通環境の充実
- だれもが安心して住み続けられるための住み替え・居住支援

重点課題2 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり

- 子育てがしやすいと思える保育・教育環境の充実
- 市独自の子ども・子育て支援や教育の推進
- 支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり
- 子育て世代にやさしい都市基盤の維持・向上
- 駅周辺の再整備・再構築によるまちの個性と魅力の創出
- 多様な働き方を実現するための環境整備

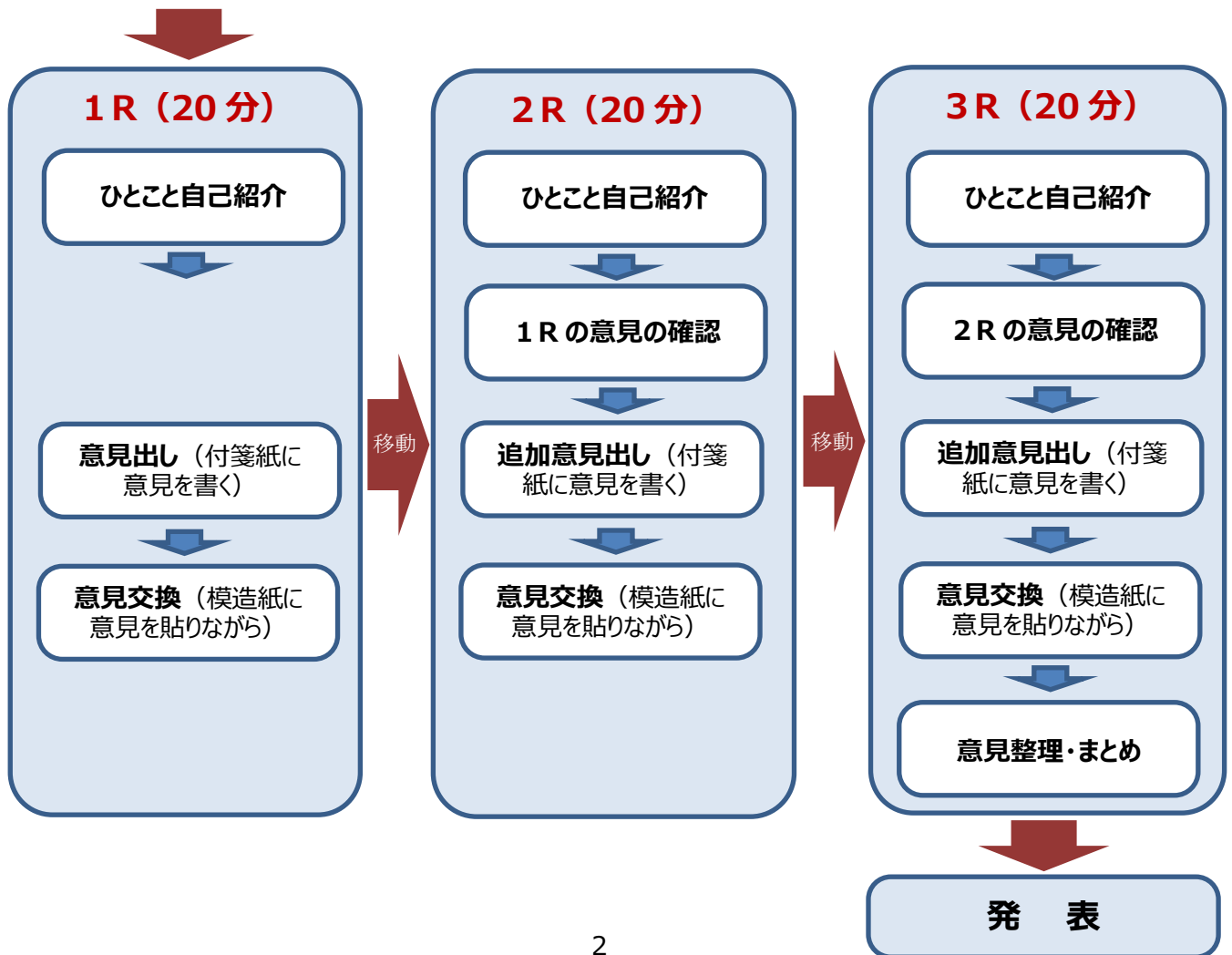
重点課題3 市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり

- 地域活動を市が後押しするためのしくみづくり
- だれもが地域活動に参画できる環境整備
- 「だれもが支え手」の地域づくり
- 地域防災・防犯活動を通じた結びつきの強化
- 多様性を尊重し、だれもがいいきと活躍できるまちづくりの推進
- 現役世代の声を地域に活かすしくみづくり

3. 当日のスケジュール

時間	プログラム
9:40	開場
10:00	開会
10:00	1. 開会挨拶（市民ワークショップの趣旨説明）
10:05	2. 趣旨説明
10:10	3. 「重点課題」・「重点課題解決に向けた視点」について
10:25	4. ワークショップ【ワールドカフェ】 ※休憩時間も含む <ul style="list-style-type: none"> ・進め方の説明（15分） ・第1ラウンド～第3ラウンド（グループ別・各20分） ・全体発表、まとめ（35分）
12:25	5. 閉会挨拶
12:30	閉会

4. 進行・実施方法（ワールドカフェ方式）



※ワールドカフェ方式

市民参画の手法の一つである「ワールドカフェ」方式を採用しました。「ワールドカフェ」とは、話し合いの場において、4～5人の小グループに分け、カフェのようなくつろいだ雰囲気の中で、思いついたことを自由に記載しながら、意見交換を行います。また、度々メンバーを交換する（ラウンドする）ことにより、参加者全員が知識や考えを共有でき、多様な意見の創出が期待できる手法です。



第2章 開催概要

1. 全体概要

(1) 日時	平成 31 年 1 月 19 日 (土) 10 時 00 分～12 時 30 分																																																		
(2) 場所	パルテノン多摩 第一会議室																																																		
(3) 対象者の 選定基準	①住民基本台帳から無作為抽出で選定された 2,000 人のうち参加を希望する 18 歳以上の方 ②本年度 8 月に実施した「総合計画改定市民ワークショップ ～10年後の多摩市を考えよう～」で参加意向を示した者																																																		
(4) 参加者	39 名 (男性 24 名、15 名、平均年齢 49.1 歳) 【参加者の内訳】 ※年代の割合は、小数点第 2 位を四捨五入した値であるため、合計数値は 100%と一致しない。 <table border="1"><thead><tr><th>年代</th><th>男性</th><th>女性</th><th>合計</th><th>年代の割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>10 代</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>2.5%</td></tr><tr><td>20 代</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>7.7%</td></tr><tr><td>30 代</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>10.6%</td></tr><tr><td>40 代</td><td>5</td><td>6</td><td>11</td><td>28.2%</td></tr><tr><td>50 代</td><td>7</td><td>1</td><td>8</td><td>20.5%</td></tr><tr><td>60 代</td><td>7</td><td>2</td><td>9</td><td>23.1%</td></tr><tr><td>70 代以上</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>5.1%</td></tr><tr><td>不明</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>2.5%</td></tr><tr><td>合計</td><td>24</td><td>15</td><td>39</td><td>-</td></tr></tbody></table>	年代	男性	女性	合計	年代の割合	10 代	1	0	1	2.5%	20 代	1	2	3	7.7%	30 代	2	2	4	10.6%	40 代	5	6	11	28.2%	50 代	7	1	8	20.5%	60 代	7	2	9	23.1%	70 代以上	1	1	2	5.1%	不明	0	1	1	2.5%	合計	24	15	39	-
年代	男性	女性	合計	年代の割合																																															
10 代	1	0	1	2.5%																																															
20 代	1	2	3	7.7%																																															
30 代	2	2	4	10.6%																																															
40 代	5	6	11	28.2%																																															
50 代	7	1	8	20.5%																																															
60 代	7	2	9	23.1%																																															
70 代以上	1	1	2	5.1%																																															
不明	0	1	1	2.5%																																															
合計	24	15	39	-																																															



2. 討論の結果

(1) 意見の整理と発表の方法

- ・付箋紙に意見を記入し、模造紙に貼り付ける。
- ・模造紙はラウンドごとに新しいものに取り替えることはせず、新しい意見を重ねていく（ラウンドごとに付箋紙の色を変え重ねて貼り付けていく）。
- ・各ラウンドの対話の主眼は次のとおり。
 - 1 ラウンド目：多様な意見に触れる
 - 2 ラウンド目：意見の掘り下げや追加により対話を深める
 - 3 ラウンド目：更に掘り下げつつ、それまでの対話のポイントをまとめる
- ・3ラウンド目終了後、簡単な発表を行っていただく。

<対話の視点>

「重点課題」を解決し、多摩市の未来をつくっていくためには、「誰が何をどのように」進めるべきか？

① 市が取り組むべきこと、またその進め方は？

⇒「重点課題解決に向けた視点」ごとに市の取組の進め方について意見交換をしていただく。いただいたご意見は、各施策における取り組みを見直す際に活用する。

② 市民ができること、またその進め方は？

⇒「重点課題解決に向けた視点」ごとに、市民も協力してやっていくべきこと、市民や地域が主体的に取り組むべきことについて意見交換をしていただく。**いただいたご意見は、各施策における「市民ができること」に反映させる。**

(2) 重点テーマごとの各グループの意見

グループごとに話し合ったテーマについて意見をまとめていただき、発表をしていただきました。

テーマ	グループ	ご意見（発表内容）
超高齢社会への挑戦	グループA	<p>①だれもがいきいきと生活できるための健康づくり活動の支援</p> <p>②介護予防・フレイル（虚弱）予防のさらなる充実</p> <p>結論は、やはり健康でなければいけないので、それはどうすれば良いかということで、個人でできる健康管理をしていかなければなりません。その中で言えるのは、食事と睡眠と運動ということが言えると思います。一番いけないことは、自宅の中にずっと一人にいるような、誰とも接しないような感じで孤独になってしまうことです。こうなってしまうと、認知症や介護の世話になってしまうのではないかと考えています。そうならないためにどうしたら良いのか、やはり色々な地域社会のコミュニティに属することがすごく良いと思います。形式ばらず非常にハードルの低い取り組みからでも良いので、いろんな方と話して、適度な運動をするということが一番健康に繋がるのではないかと考えています。行政の方でお願いしたいこととしては、他人と接する機会がなかなかない方も沢山いらっしゃると思うので、そういったコミュニティに参加できるような形で後押ししてくれるような組織をつくっていただくみなさん参加しやすくなるのではないかと考えています。そうすると、健康で人生を終えられるのではないかとこのような結論となりました。</p>

<p>グループB</p>	<p>1-③地域医療・介護体制を支える仕組みづくり</p> <p>1-④高齢者の居場所づくりと地域における支援体制の充実</p> <p>まず、「高齢者の居場所づくりと地域における支援体制の充実」ですが、高齢者の居場所づくりというところで、今現在、超高齢社会とは言っても、元気な高齢者が多いと思っています。医療もしっかりしていますし、退職後も働ける元気な高齢者も大勢いて、実際にまだまだやりがいを持って色々やりたいという気持ちを持っておられる方が多いということを聞きましたので、まずはそういった方々の活動の場を設けてあげた方が良いのではないかという話が出ています。一部、そういったボランティアの場なども設けられていると思うのですが、まだまだどこで何をやっているか、などの情報が受け取れないため、まず情報発信の仕組みを広げていただきたいという話が多く出ていました。</p> <p>あと、「地域医療・介護体制を支える仕組みづくり」では、ここも同じ結論にはなるのですが、地域で医療を受けたい方、介護の支援を受けたい方々が、どこに何を言ったら良いのかわからないので、いろいろと支援をしてほしいけれど、まずは支援の要望を言える場所がほしいという意見が出ています。そういった場に支援をしていただきたい方がエントリーして、エントリーした方に対して、高齢者の方々やまだまだ元気な方々が応えていくというような場が設けられると良いのではないかと出ています。ほとんどが要望ばかりで、こうしてほしい、ああしてほしいという意見がほとんどですが、その中で市民ができることと言えば、市でつくってもらったHPなどの募集に対して応えていくことが市民としての努力と言いますか、活動なのではないかと思っています。そういった中で市民としてもサークルなどをつくって、市のHPなどで、こういうことをしますというような募集を広く公開していただいて、そこに市民から応えていただくというような場所が設けられると良いという話になりました。</p>
<p>グループC</p>	<p>1-⑤だれもが安心して外出することができるための交通体系・交通環境の充実</p> <p>1-⑥だれもが安心して住み続けられるための住み替え・居住支援</p> <p>「だれもが安心して外出することができるための交通体系・交通環境の充実」とありまして、非常に声が大きかった意見が、カーシェアの場所をもっと増やすということと、自転車を自由に使えるコミュニティサイクル、モノレールを充実させてほしいということです。モノレールは、ずっと町田まで延伸という話が出ていますけれども、ぜひもっとプッシュして、市で頑張って町田まで延ばしてほしいことと、モノレールをもっと利用できるように安くしてほしいということです。</p> <p>「だれもが安心して住み続けられるための住み替え・居住支援」というのは、高齢者向けのサービスについての意見が多かったです。生活をしていく上で、これからはインターネットを利用できた方が良いのではないかと。なかなか昔みたいに団地に商店街もなくなって、食料を近くで買うところもなくなってきていることもあり、今はインターネットで食料を買えたりもできるので、そのためにもインターネットを活用できるように支援をしていくことが大事なのではないかということと、医療機関と高齢者との連携や見守り、商店街の活性化というのはなかなか難しいかもしれませんが、そういう声も出ていました。</p>

<p>2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり</p>	<p>グループD</p>	<p>2-①子育てがしやすいと思える保育・教育環境の充実 2-②市独自の子ども・子育て支援や教育の推進</p> <p>まず、保育の充実という部分でけっこう話が挙がりまして、少子化ではありますけれど、まだ保育園の待機児童が多いのではないかとということや、保育の施設を多く作ってもらいたいということ、保育モデルの地域をつくってみたらどうかということが挙がりました。また、今も昔もあると思いますが、いじめの対策の問題もありまして、いじめの相談窓口をもっと相談しやすい窓口ができれば良いのではないかと思います。あとは、地域交流というものが3ラウンドを通して挙がってまして、やはり子ども同士でも地域交流に関わりもありますし、高齢者の方とも関われるイベントを市の方でやってもらったり、市民ができることとして、声かけをすることで地域交流が盛んになっていじめの問題も解決に向かっていくのではないかということで話し合っています。</p> <p>「市独自の子ども・子育て支援や教育の推進」では、英語教育の充実というところで、教える側への指導や支援、外国籍の方たちの言葉の生活の指導や支援があると、先ほどのいじめの問題であったり、いろんな地域交流が盛んになるのではないかという意見が出ました。また、スポーツチームが多摩市にはあるのですが、少子化で減少してきています。お金の負担がチームにはありまして、運営も難しくなっている部分で、子どもたちも入り辛くなってきているのもあるのではないかと思いますので、市の方でも頑張ってもらいたいと思います。来年、オリンピックも多摩市に来ますので、市民で応援に行ったりして、居たくなるようなまちにみんなできれば良いのではないかという話になりました。</p>
	<p>グループE</p>	<p>2-③支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり 2-④子育て世代にやさしい都市基盤の維持・向上</p> <p>「支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり」というのが重要課題として挙げられていますが、この課題に対してグループで出た意見としては、支援を必要とされている方が市役所に対していろいろ申請や手続きをしなければいけないそうなのですが、その時に、こちらの窓口ではなくあちらに行ってくださいなど、たらい回しにされてしまうので、支援を受ける側が受けやすいように窓口を一つにするなど、受けやすくサポート体制を整えてほしいという意見が出ました。市民としては、支援を必要とする子ども等には自分から助けを求められない方もいらっしゃるので、それは、市民自身が気付いてあげられるように気をつけてあげることが必要ではないかという意見が出てきました。</p> <p>「子育て世代にやさしい都市基盤の維持・向上」というところでは、今、高齢者の方に対して、条件はあるそうですが、お弁当の支給などを市がサポートしているようですが、それを高齢者だけでなく支援を必要としている方、例えば産後に実家が遠く離れているので支援が受けられない、手伝ってもらえる人が近くにいないという方等に対しても、お弁当のサポートをしたり、怪我で身動きがとれないけれども一人暮らしで大変だとか、そういう方、本当に支援を必要とされている人にも</p>

	<p>使えるようなサービスにしてもらいたいという意見が出ました。あとは、ファミリーサポートという制度があるのですが、サポートを受けてどうだったかフィードバックをしなければならないなど、若干使い辛い部分があるので、もっと気軽に使いやすいような制度にってもらいたいというような意見が出ました。また、こういう良いサービスがあるのですが、市民が知らないということが多くあるので、うまく市民が情報をキャッチできるように情報発信をしてほしいと思っています。</p>
	<p>グループF</p> <p>2 - ⑤ 駅周辺の再整備・再構築によるまちの個性と魅力の創出 2 - ⑥ 多様な働き方を実現するための環境整備</p> <p>まず、「駅周辺の再整備・再構築によるまちの個性と魅力の創出」のために何ができるかを考えました。最初に、魅力的なものを建てれば良いのではないかと、極めて具体的な意見として出ました。また、若者が好むような飲食店を集めるというのも良いのではないかと意見もありました。ただ途中から、そもそも魅力的なものを建てたとしても、駅周辺からのアクセスがあまり良くないのではないかと、それを解決する必要があるという意見も出ました。例えば、自転車が利用できるように川沿いに自転車の専用道路をつくることや、駅から離れた場所からアクセスしやすくするためにバスを増やしたりすることが良いのではないかと意見が出ました。一方で私たちができることは何かということで、多摩市では多摩センターなどがドラマや映画の撮影などで使われていることが市の広報からも紹介されているということで、そこをもっと私たち市民がアピールしていれば魅力的なまちというものを発信できるのではないかと考えました。</p> <p>あと、今は廃止されてしまっているのですが、関戸で開催されていた花火大会の復活は、市の魅力を復活させるためにも良いのではないかとことでした。「多様な働き方を実現するための環境整備」については、多様な働き方を実現するためには、働くところがないといけないので、企業誘致や年齢に関わらず働きやすい環境を整備することが必要なのではないかと意見が出ました。また、サテライトオフィスやテレワークのできるような仕組みを用意することが環境の整備として必要だという意見が出ています。あとは、多摩市民の方でできるスタートアップや多様な働き方を支援できるようなサービスの提供も必要だという意見も出ています。</p>
<p>3. 市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり</p>	<p>グループG</p> <p>3 - ① 地域活動を市が後押しするためのしくみづくり 3 - ② だれもが地域活動に参画できる環境整備</p> <p>「地域活動を市が後押しするためのしくみづくり」と「だれもが地域活動に参画できる環境整備」ということで、市が地域活動を後押しするというポイントと、誰もが参画できるにはというポイントなのですが、明確に分けることが難しかったです。地域活動といった時に、具体的に私たちが何を頭に浮かべたかというと、一つには自治会などもありますが、何ができるのか、何をやりたいのか、何をしてほしいのかを伝える方法がまだまだできていないのではないかと、後押しする以前の告知ができていないのではないかと視点が非常に強かったと思いま</p>

す。例えば、ボランティア活動をするということでも、どんなことができるのか、私はこういうことがしたい、といった時に、どこに行ったら良いのか、誰に相談したら良いのかよく分からないということがありますので、そこら辺をもっと教えてほしい、知りたい、あるいは発信したいということで、このご時勢ですから IOT ということで、「インターネットオブ多摩」ということで、そういった仕組みができれば良いのではないかと考えています。今までのたま広報も非常に良い広報誌なのですけれども、それに加えて、インターネットや SNS を使ったらもっと簡単にやりたい、手伝ってほしい情報が集まるのではないかという意見が、「後押しをするインフラづくり」が大事なのではないか、といったところでよく出ていました。その中で、やはり市の取組を見えるようにしてほしいといったような意見もありました。

また、「だれもが地域活動に参画できる環境整備」というところでは、だれもができる地域活動は何だろうか、ということで、例えば、働きながら、とか子育てをしながら、など、色々な活動ができればということがありまして、**ボランティアで保育所をやってほしい**などの意見も出ているのですが、やはり、どうやって関わったらよいかを知りたいという意見が多く出ていました。あとは、多摩市民の中には**現役をリタイアされた世代もいるので、その方々にも色々と手伝ってもらえるのではないか**というような意見も出ていました。

グループH

3-③「だれもが支え手」の地域づくり

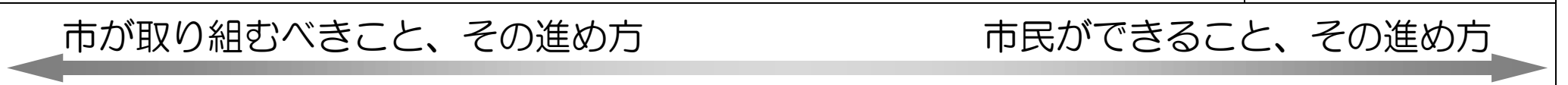
3-④地域防災・防犯活動を通じた結びつきの強化

結論としては、市に期待してはだめ、自分たち一人一人が頑張らないとだめだ、というニュアンスがこの重要課題に込められているということを認識して、**市民が覚悟することが大事だ**ということです。それから、**地域をお互い知る必要があります**。戸建て住宅でも隣を知らない、関わらないということがあります。もっと結びつきを強くするために、自分たちでどうしたら良いのかを考えなければなりません。例えば、地域のハロウィンで「ハロウィンなんて面白くもない、西洋の変な仮面をかぶって！」等というのではなく、高齢者が子どもにお菓子をあげるということで結びつきができていくということが全国でもあります。それを見て**地域の推進委員会で昨年ハロウィンイベントを初めて開催したところ皆さん非常に喜んでおり、結びつきができたと感じました**。仮面を被っておかしなことをする、と一概に否定するのではなく、良いではないか、と肯定的に捉えてもよいのではないのでしょうか。それから、大掃除も良い取り組みだと思います。大掃除もあまり行われていないと思います。建物の所有形態によって違うところはあると思います。賃貸マンションはあまり実施していない一方、購入マンションは長く住むから大掃除もしようという意識があるように思いますが、それについては、公団などに大掃除をやりますよといった指導をしてもらってはどうか。今、多摩市で「大掃除デー」などを設けていますが、実際に実施しているのかどうか、見ていないのではないのでしょうか。この地域はあまり実施されていないようだ、とか、実施してみてくださいはどうか、とか、大掃除は良いものですよ、など、上から目線ではなく呼びかけを行ってもよいのではないのでしょうか。私は**大掃除を経験して地域を知**

	<p>るということを感じています。あとは、挨拶運動も同じです。小学校でも運動が実施されていますが、挨拶運動期間が過ぎたら子どもは挨拶をしなくなっています。それを怒るのではなく、住民は気付いたら挨拶したら良いのではないのでしょうか。サイクルを回していけば良いのではないかといったところです。それから、非常に有効な手段として焚き火があります。以前、ダイオキシンを出すから良くない、など色々な噂があって最近では減っていますが、焚き火は暖かい火を囲んで地域の人が喋る良い機会です。それを復活したいと昔から思っていたところ、グループ内に意見が合う人がいました。この間テレビで、実は市では禁止はしていないという話も見たのですが、どうなのでしょう。自ら忖度して取りやめているのではないか、ダイオキシンは実は出てこないのではないのでしょうか。ダイオキシンの弊害よりも地域のコミュニティに与える良い影響の方が大きいのであれば、多摩市で条例を作り、焚き火復活運動をしても良いのではないかと考えました。例えば、公園で炊き出し訓練をやろうと思ったら使用許可が出ていないからできないということがありました。せっかく新しい公園にかまどを設置することが出来たという話を聞いたのですが、焚き火は禁止だそうです。市で条例があれば、いつでも自由に焚き火が出来るといった形にできて良いのかなと思います。</p>
<p>グループ I</p>	<p>3 - ⑤多様性を尊重し、だれもがいきいきと活躍できるまちづくりの推進 3 - ⑥現役世代の声を地域に活かすしくみづくり</p> <p>テーマの一つ目「多様性を尊重し、だれもがいきいきと活躍できるまちづくりの推進」は、すごいテーマだと思いました。二つ目のテーマは、「現役世代の声を地域に活かすしくみづくり」です。</p> <p>個々の意見を紹介する前に、最後の発表として言えることは、実はこのテーマに近い内容は他のグループが発表した内容で全て触れられていると思います。ただ、ここに出てきたのは、外国人の方とか世代が違う、など色々あります。それも受け入れていかないといけません。例えばオリンピックもありますし、サンリオピューロランドなどはキティちゃんの聖地ですから、色々な方がいらっしやると思います。そういった方の受け入れもありますし、働いている方が現役世代と考えたら、現役世代の方は都心の方に通勤することが多いですが、主婦も学生も高齢者も何らかの現役なのです。それを活かせる仕組みづくりというのは必要だと思うのですが、みなさんおっしゃったように、実際に「ゼロ」ではなく、全部「一」まではスタートしているのだと思います。コミュニティ館もありますし、図書館も新しくなり、パルテノン多摩も改修されます。一とか二とか、一歩、二歩は踏み出しているの、それを活用した方が実績があるのではないかと、というカードにはない声を感じました。ですから、外国の方も受け入れますし、主婦の方も、学生の方も、高齢者の方も現役なのです。何らかのチャンスを得て情報を発信されている方、情報を受ける方がけっこういらっしやるので、何から得るかというその一歩さえ踏み出せばもう少し大きなテーマだけでなく、自分の中の多様性を活かして、現役で活躍ができるまちになれるのではないかと感じました。</p>

重点課題1. 超高齢社会への挑戦

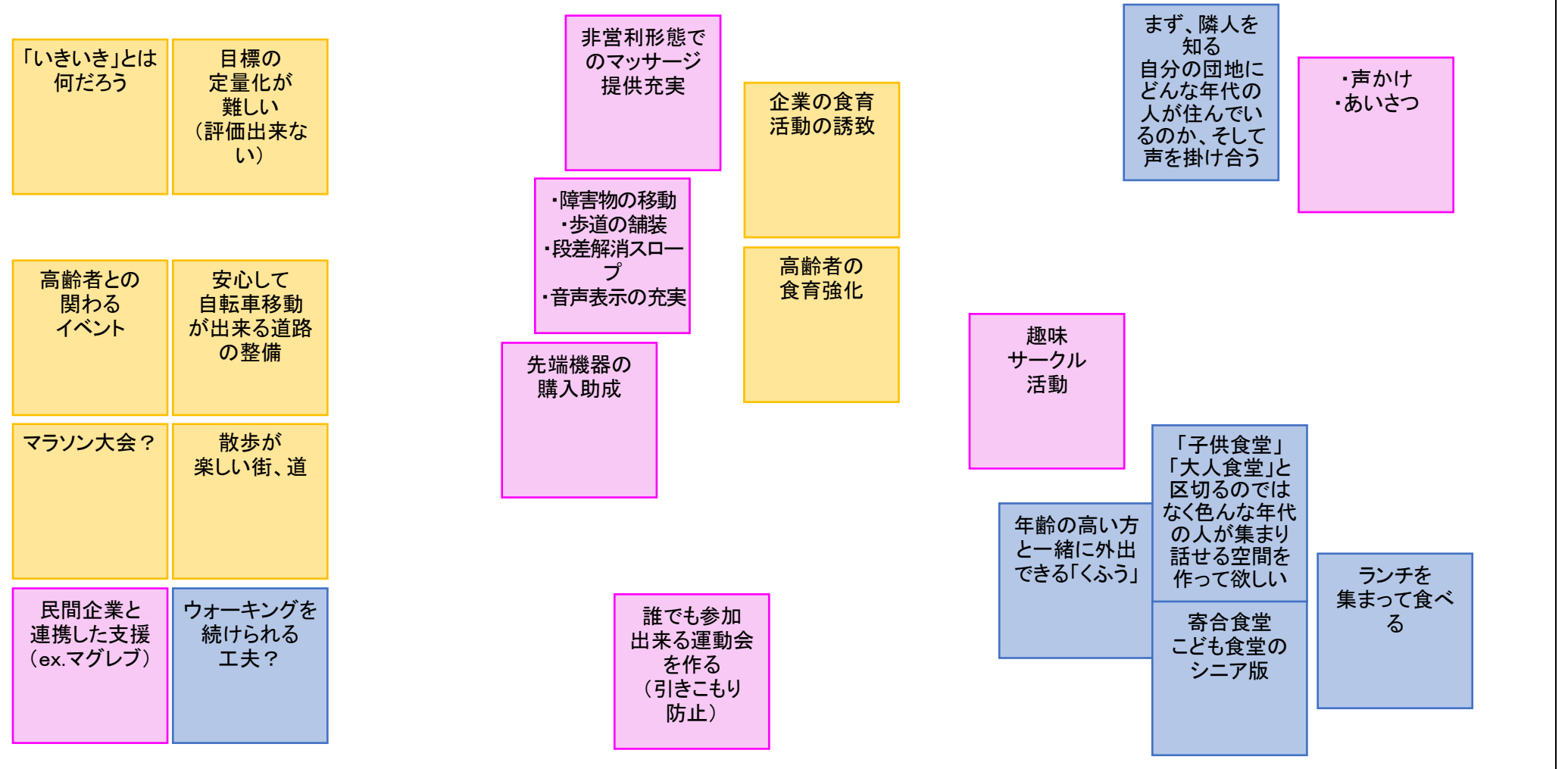
A グループ



重点課題解決に向けた視点

① だれもがいきいきと生活できるための健康づくり活動の支援

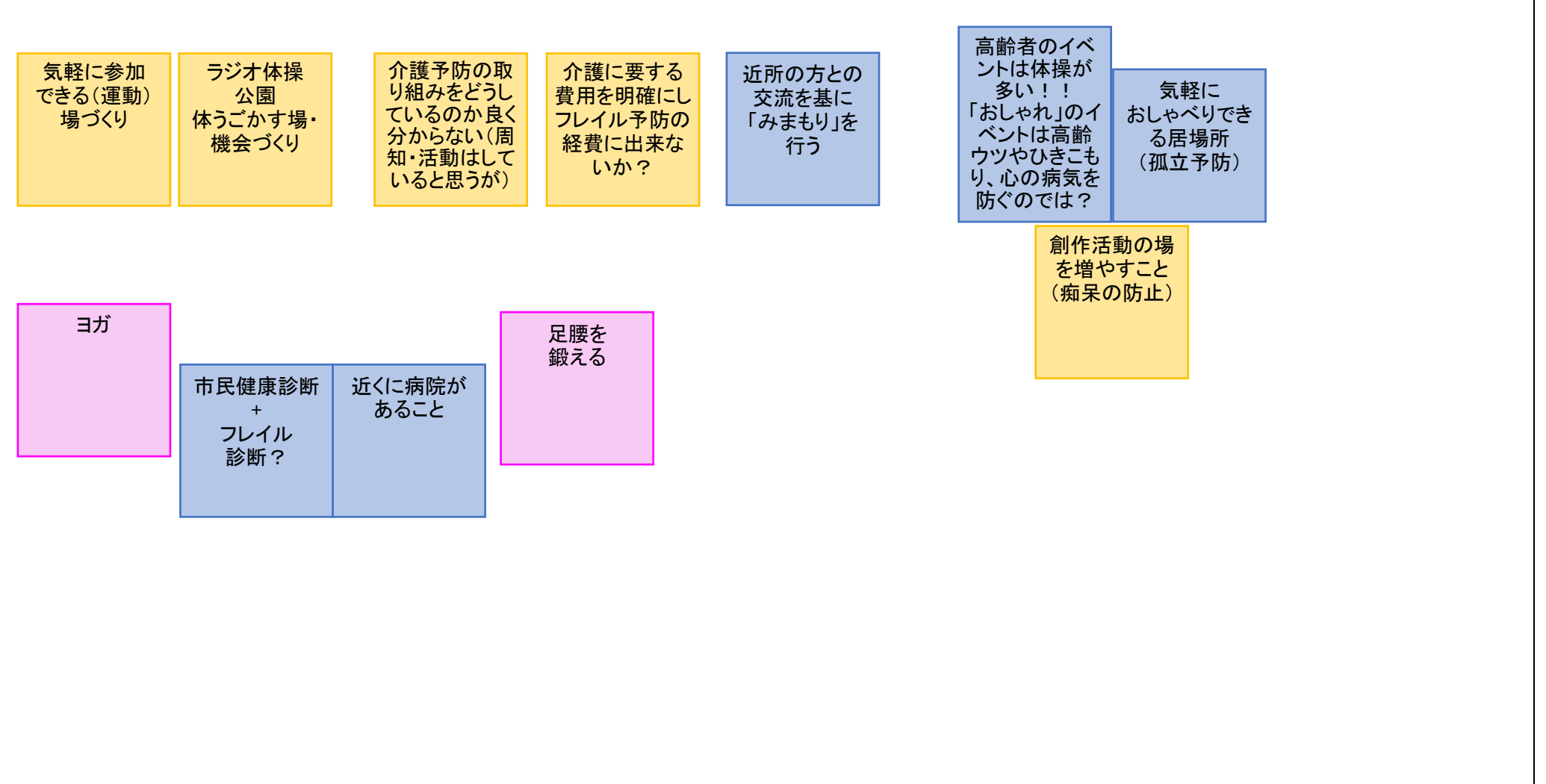
② …だれもがいきいきと生活できるための健康づくり活動を後押しすることができているか？



重点課題解決に向けた視点

② 介護予防・フレイル（虚弱）予防のさらなる充実

…高齢者が住みなれた地域で健康を維持しながら暮らしていける地域となっているか？



重点課題1. 超高齢社会への挑戦

B グループ

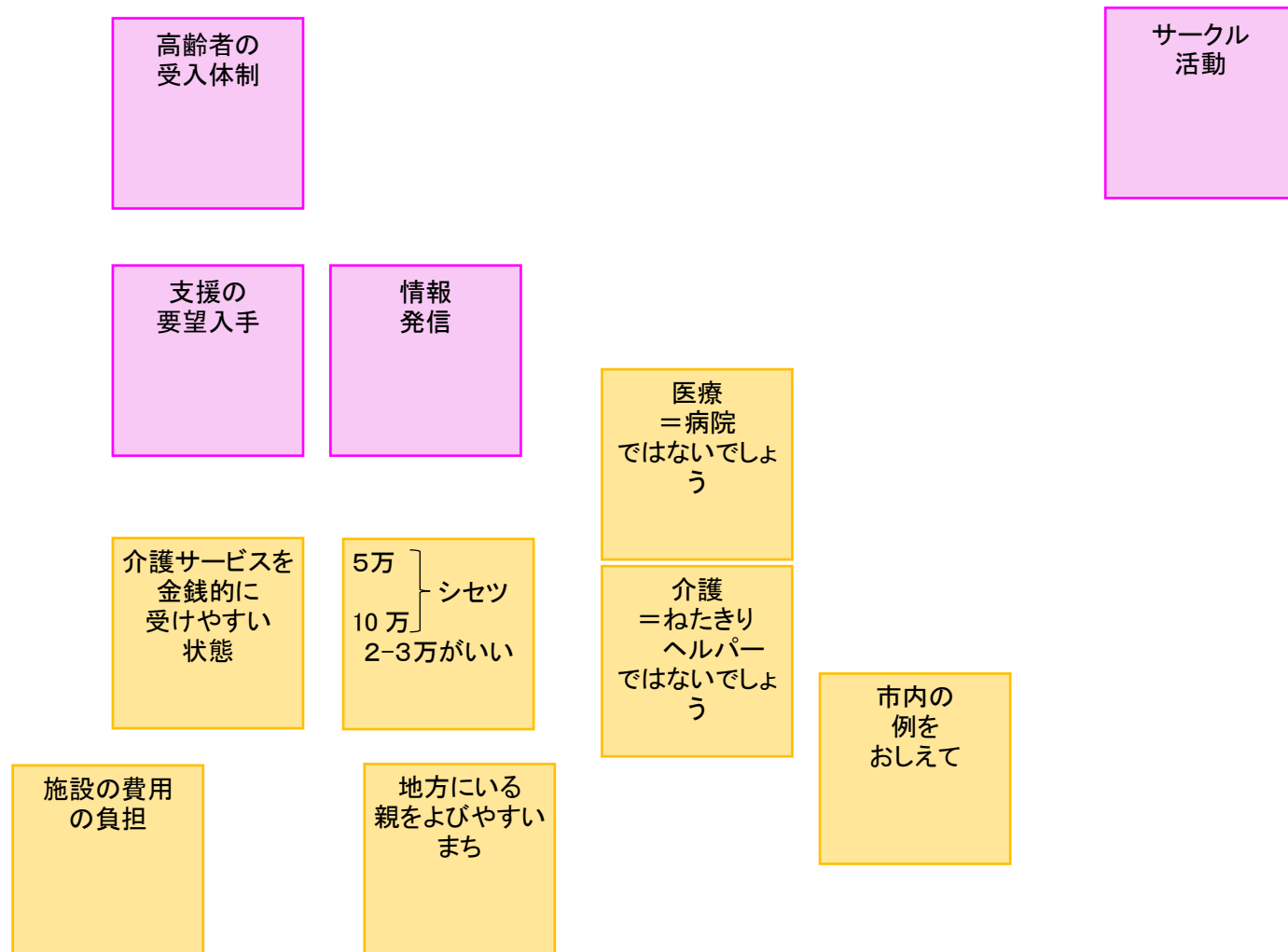
市が取り組むべきこと、その進め方

市民ができること、その進め方

重点課題解決に向けた視点

③ 地域医療・介護体制を支える仕組みづくり

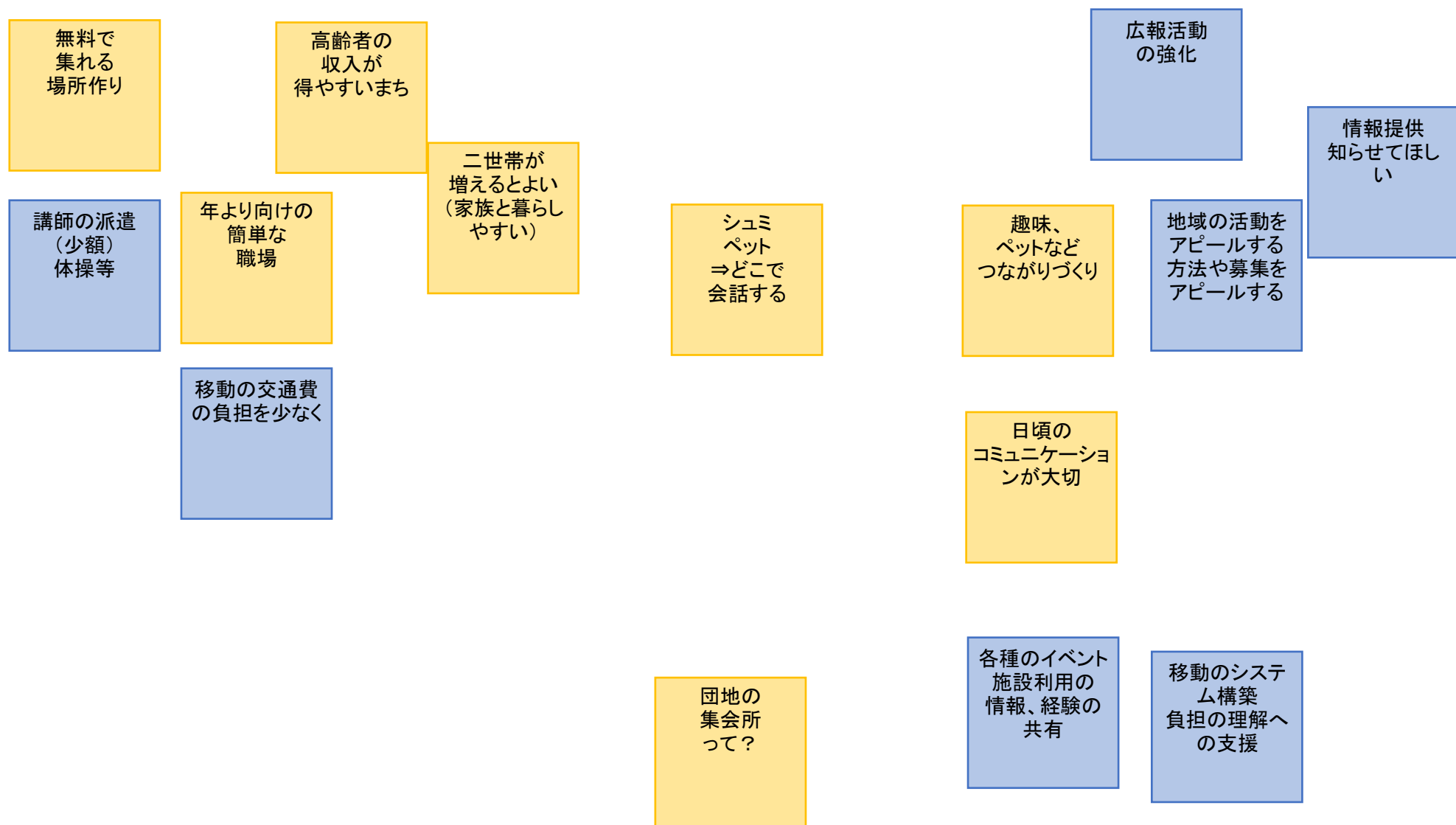
④ …だれもが在宅でも安心した生活が送れるまちとなっているか？



重点課題解決に向けた視点

④ 高齢者の居場所づくりと地域における支援体制の充実

…高齢者の身近に居場所が存在し、地域においても支援体制が充実しているか？



重点課題1. 超高齢社会への挑戦

C グループ

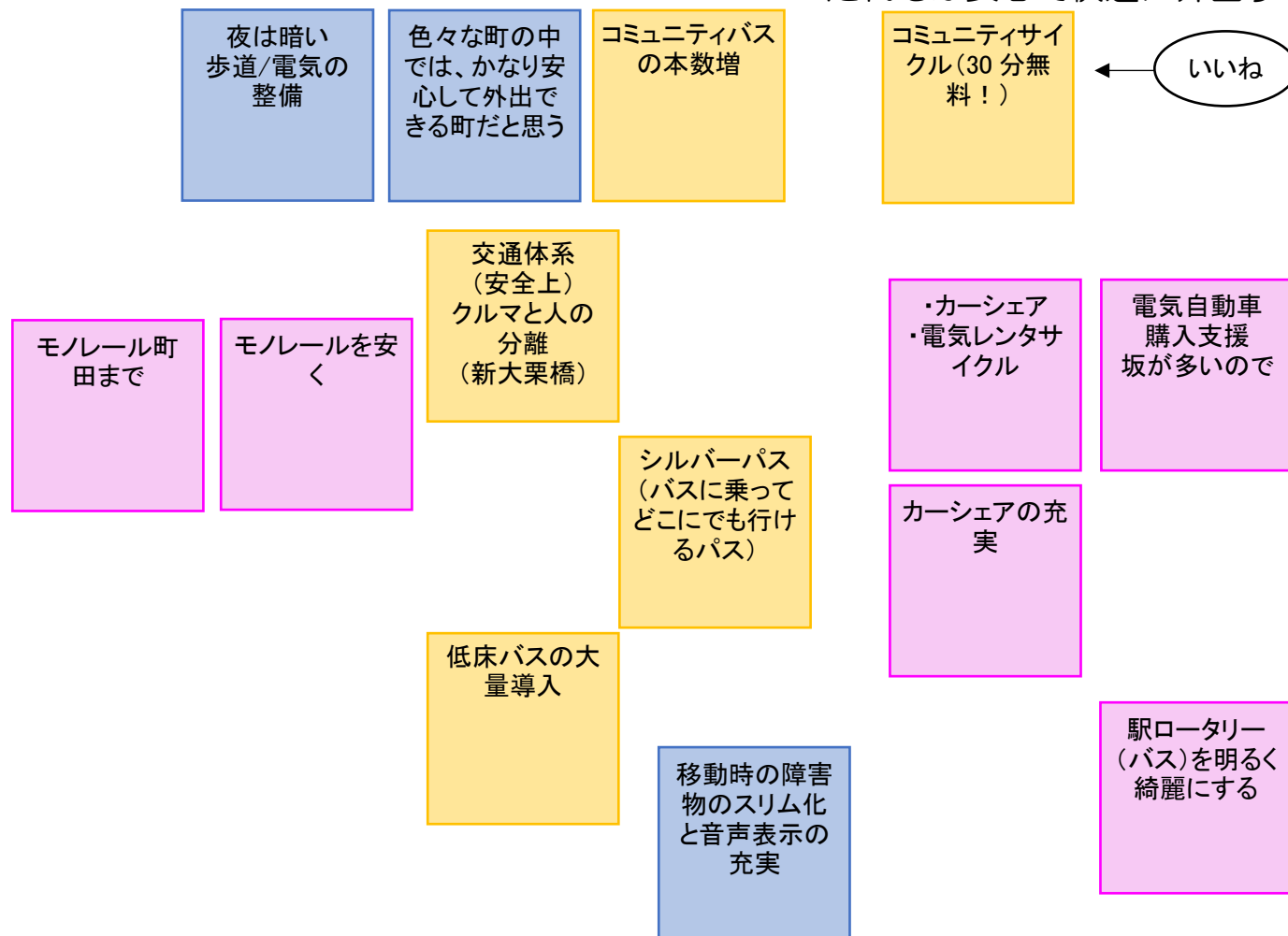
市が取り組むべきこと、その進め方

市民ができること、その進め方

重点課題解決に向けた視点

⑤ だれもが安心して外出することができるための交通体系・交通環境の充実

…だれもが安心して快適に外出することができるまちになっているか？



重点課題解決に向けた視点

⑥ だれもが安心して住み続けられるための住み替え・居住支援

…だれもが地域で安心して住み続けられるまちとなっているか？



重点課題2. 若者世代・子育て世代が 幸せに暮らせるまちの基盤づくり

D グループ

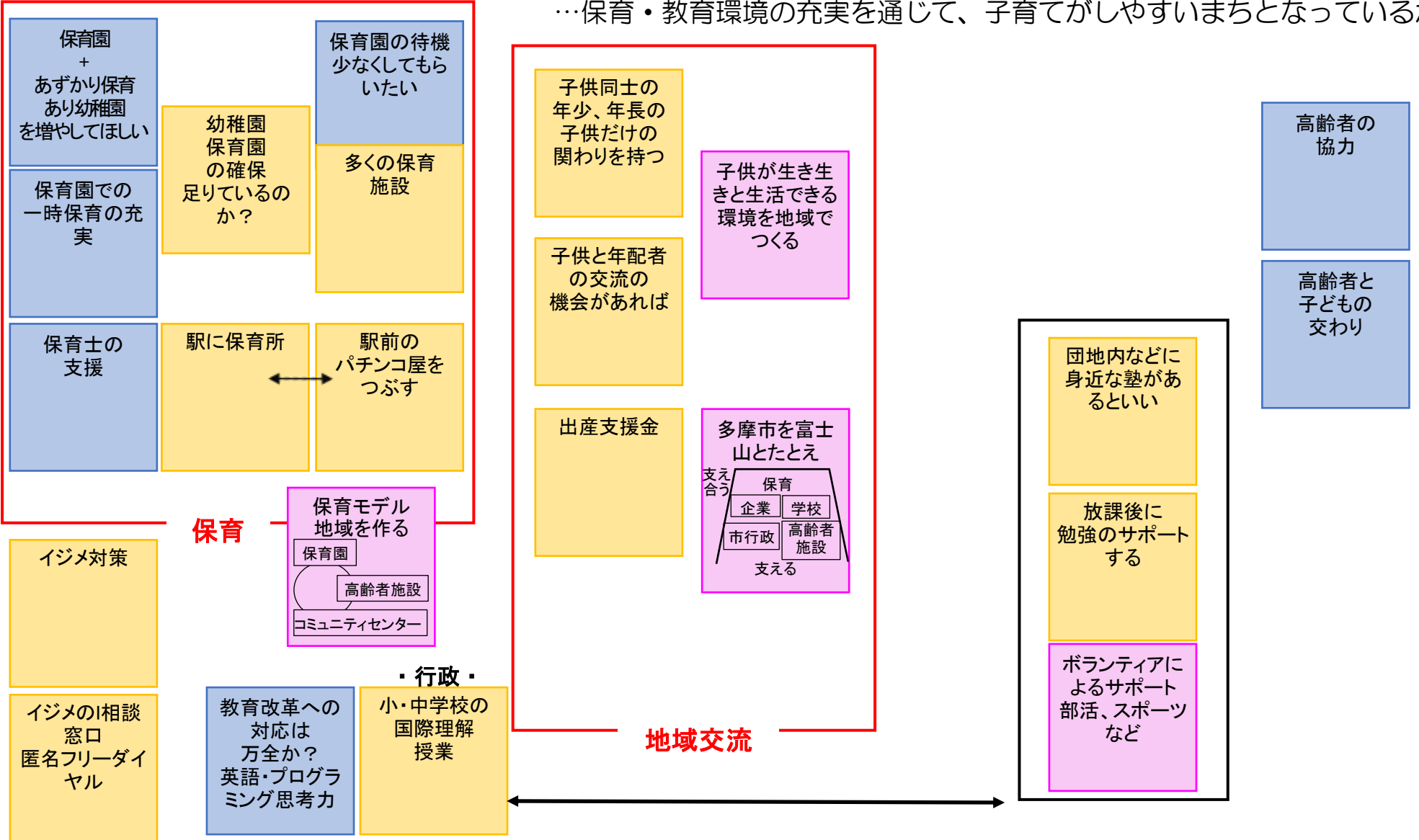
市が取り組むべきこと、その進め方

市民ができること、その進め方

重点課題解決に向けた視点

① 子育てがしやすいと思える保育・教育環境の充実

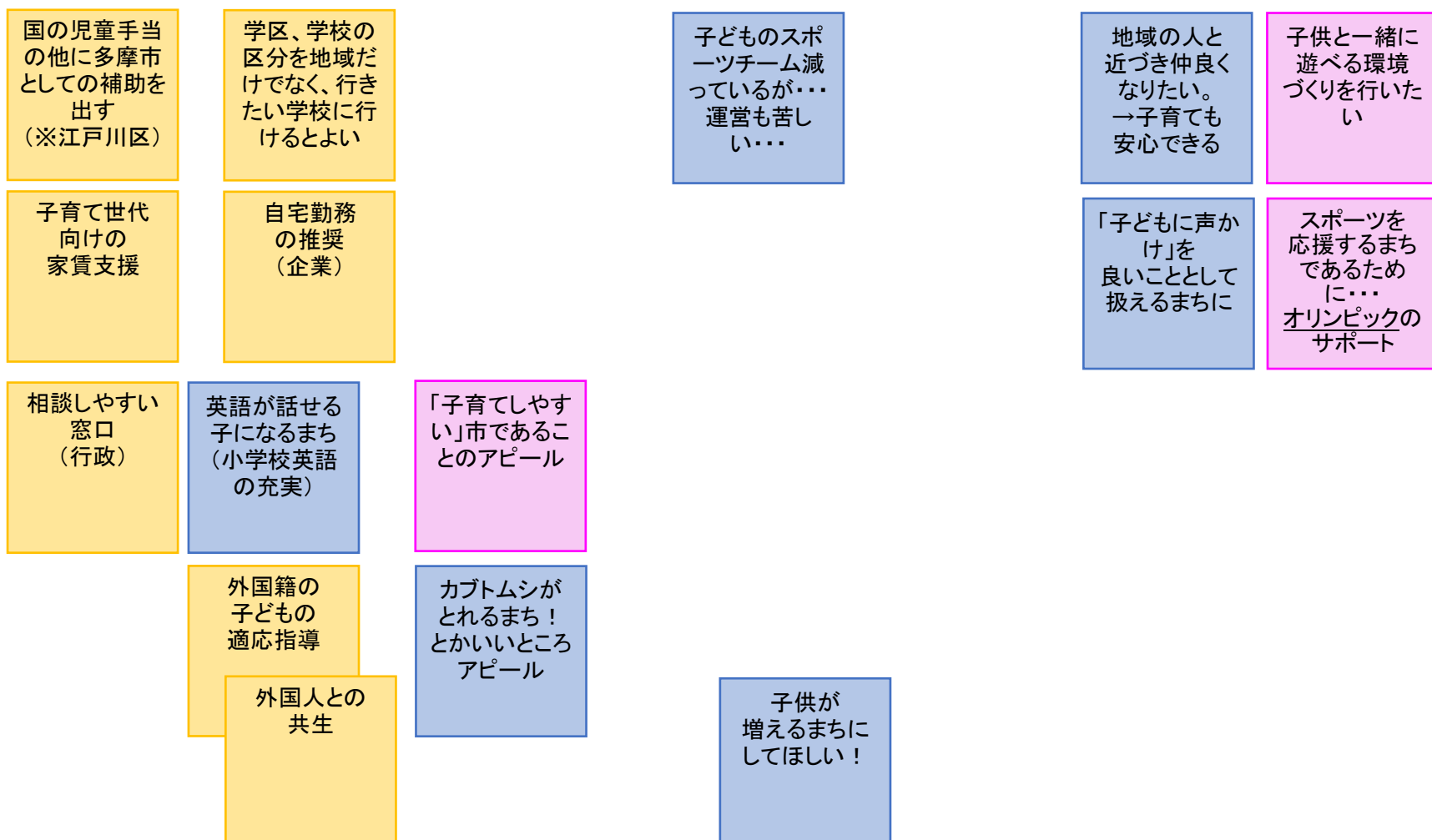
…保育・教育環境の充実を通じて、子育てがしやすいまちとなっているか？



重点課題解決に向けた視点

② 市独自の子ども・子育て支援や教育の推進

…子ども・子育て支援や教育の推進のため、魅力あるサービスが提供できているか？



重点課題2. 若者世代・子育て世代が 幸せに暮らせるまちの基盤づくり

E グループ

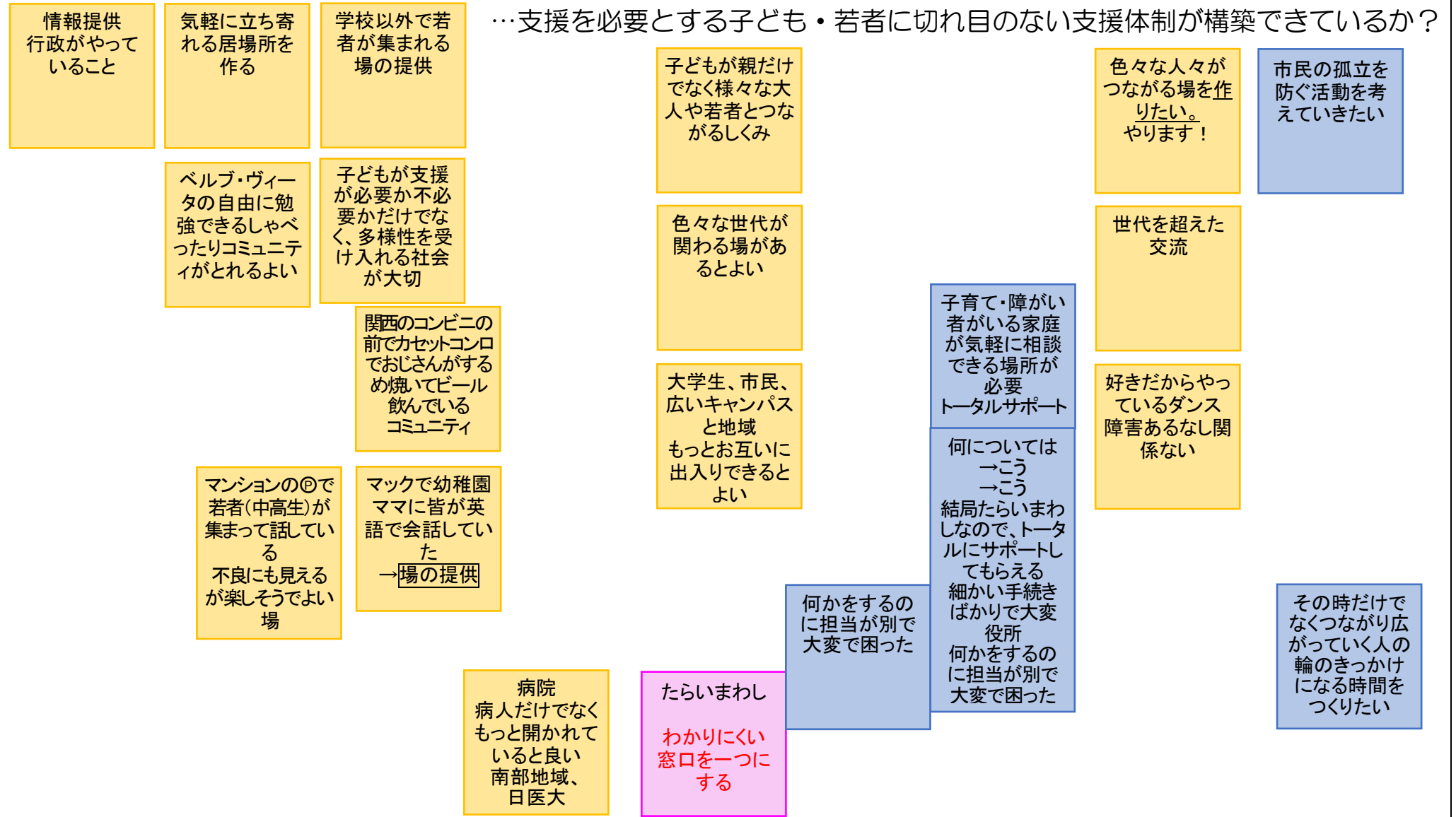
市が取り組むべきこと、その進め方

市民ができること、その進め方

重点課題解決に向けた視点

③ 支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり

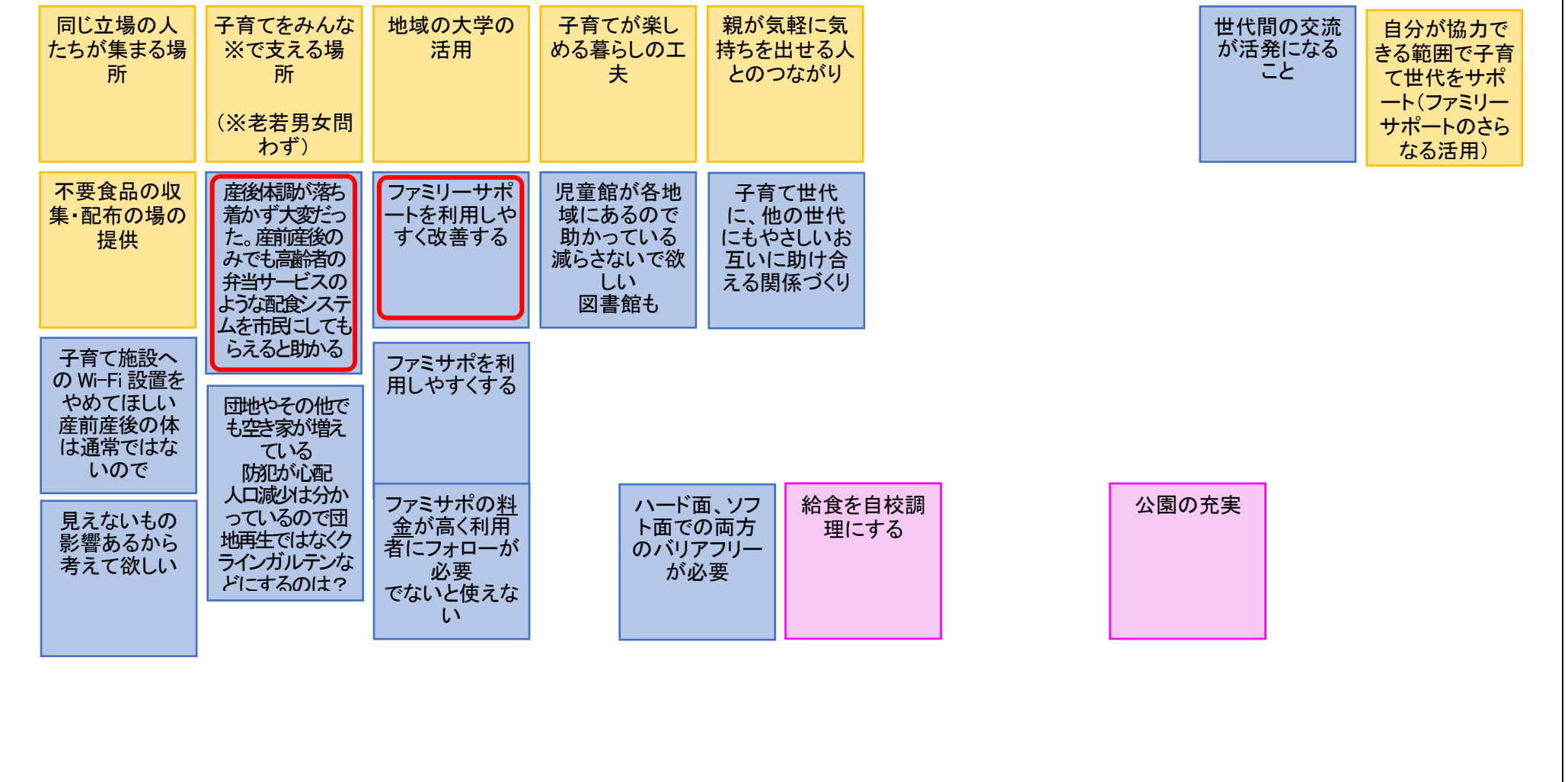
…支援を必要とする子ども・若者に切れ目のない支援体制が構築できているか？



重点課題解決に向けた視点

④ 子育て世代にやさしい都市基盤の維持・向上

…子育て世代の流入や定住促進につながる豊かな都市基盤が確保されているか？



重点課題2. 若者世代・子育て世代が 幸せに暮らせるまちの基盤づくり

F グループ

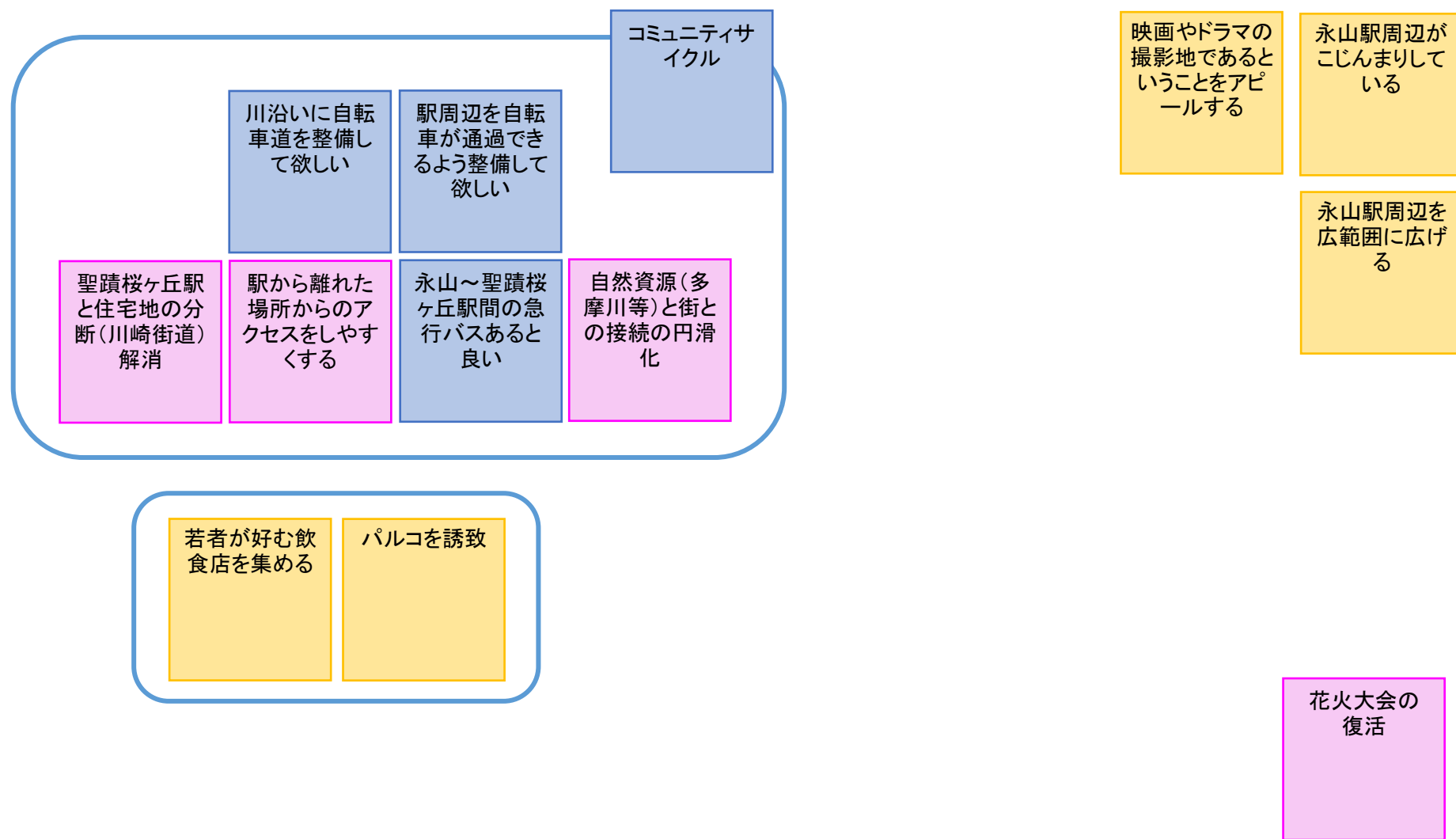
市が取り組むべきこと、その進め方

市民ができること、その進め方

重点課題解決に向けた視点

⑤ 駅周辺の再整備・再構築によるまちの個性と魅力の創出

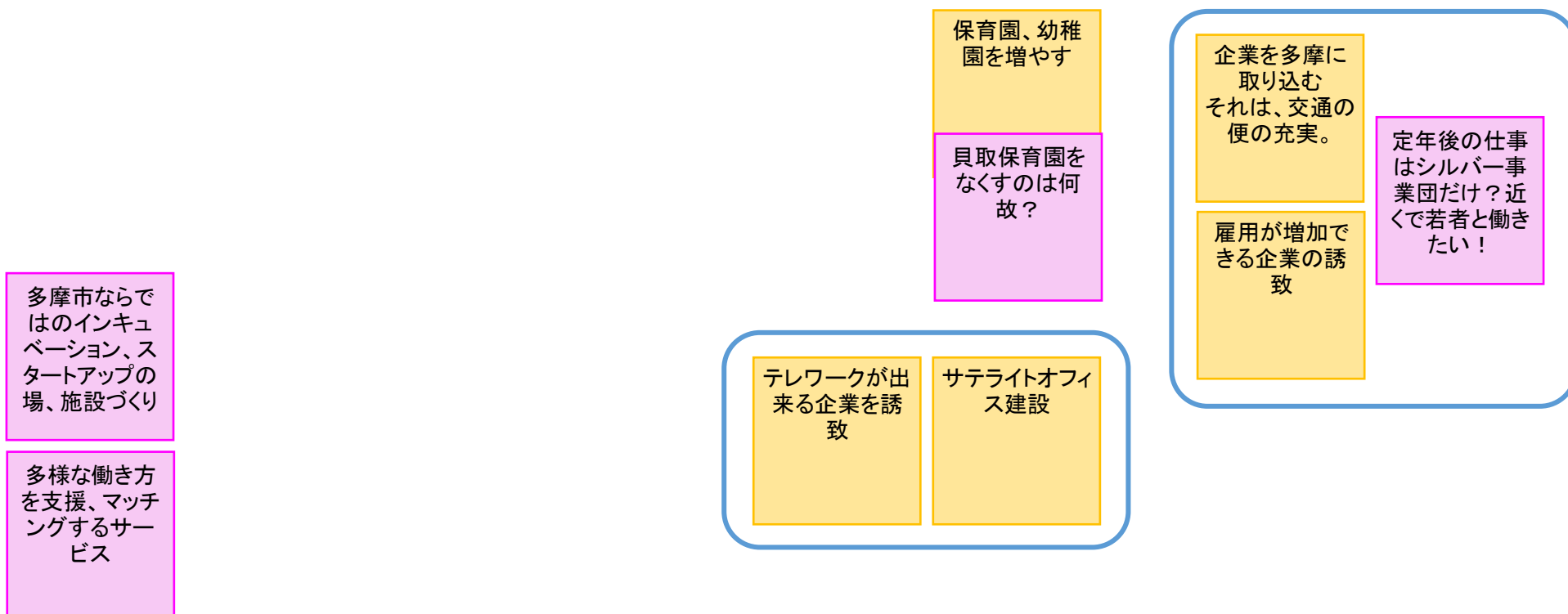
…若者世代・子育て世代にとって個性的で魅力あるまちづくりができていますか？



重点課題解決に向けた視点

⑥ 多様な働き方を実現するための環境整備

…働く場と雇用環境の多様性が確保されているか？



重点課題3. 市民・地域と行政との 新たな協働のしくみづくり

G グループ

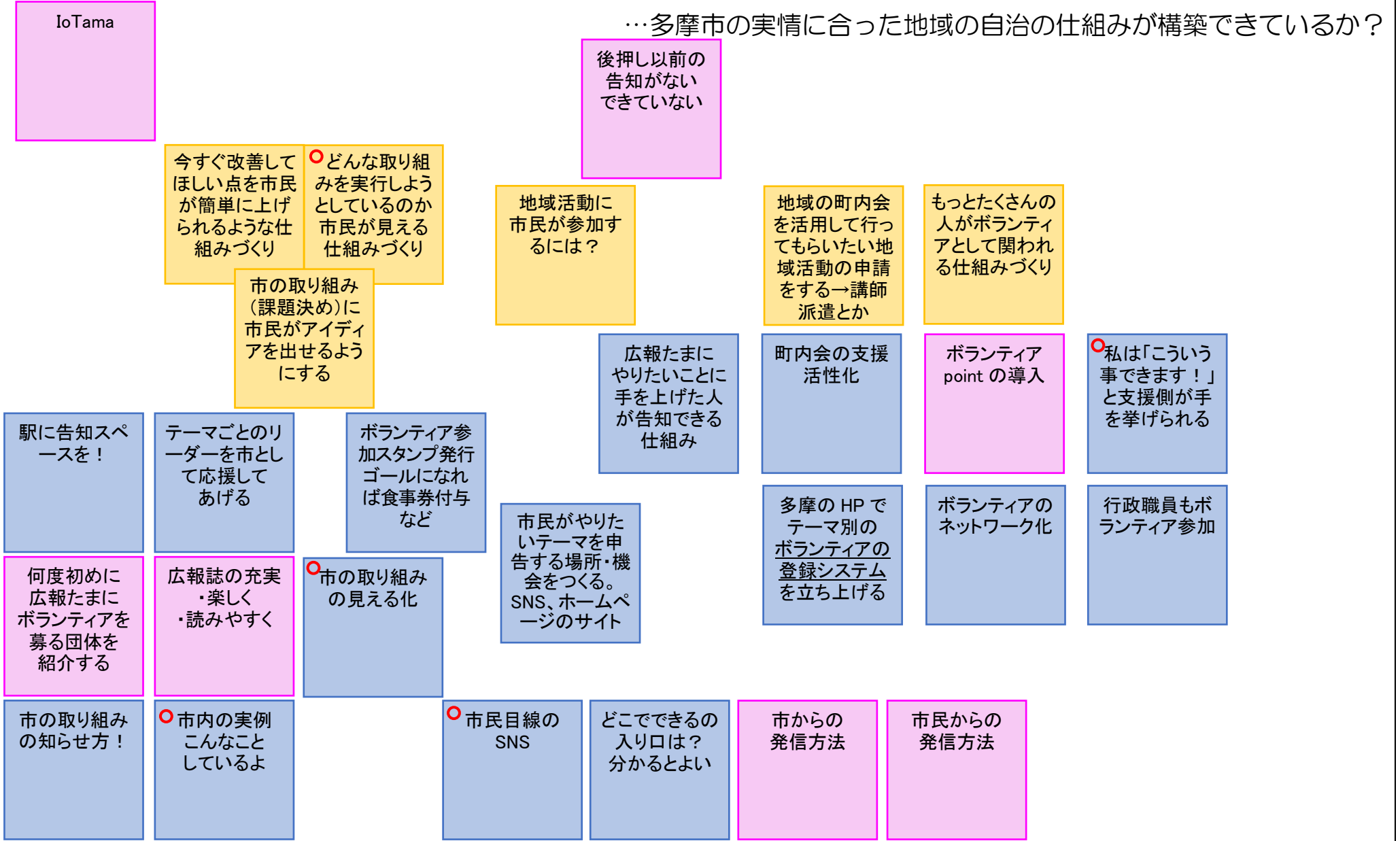
市が取り組むべきこと、その進め方

市民ができること、その進め方

重点課題解決に向けた視点

① 地域活動を市が後押しするためのしくみづくり

…多摩市の実情に合った地域の自治の仕組みが構築できているか？



重点課題解決に向けた視点

② だれもが地域活動に参画できる環境整備

…働きながらも、子育てをしながらでも地域活動に参画できる地域・体制となっているか？

